THE ザ・プレス PRESS 国際高

発行所
富山市願海寺水口444番地
富山国際大学付属高等学校
新聞部
ホームページアドレス：http://www.tuins-h.ed.jp
印刷所　北日本印刷株式会社

8つの部 いざ全国へ

夏の陣 大舞台に挑む

昨年は軒並み、中止やオンライン開催となった全国大会が、この夏は行われる。国際高から、バドミントン、柔道、テニス、放送、新聞の5つの部活動と、個人登録のボクシング、吟詠剣詩舞、弁論の3つの部門が全国の舞台に挑む。

バドミントン部 3部門で富山インターハイ出場

バドミントン部は、6月5～7日に行われた県高校総体の女子学校対抗で見事、優勝を勝ち取った。また、個人対抗ダブルスで中出すみれ（38H）・押見綾奈（38H）ペアが優勝、竹内真那（38H）・名倉あゆみ（38H）ペアが2位、土井さくら（38H）・早川夏稀（34H）ペアが3位、さらにシングルスでは竹内さんが優勝、中出さんが2位、土井さんが3位と、単複ともに本校が1～3位を独占し、計3部門でインターハイ出場の切符を手にした。

続いて6月18～20日に出場した第44回北信越高校大会でも女子学校対抗で優勝に輝いた。

北信越大会から、どんどん一つになってきているというチーム。現在はインターハイに向け、試合数も多いためトレーニングを多くしている。日々、試合形式の練習から、自分達の足りないところや課題を見つけてそこを意識した練習に励んでいるという。主将の中出さんは「目標は優勝です。大会が開催されることに感謝して悔いのないよう全力で頑張りたい。それまで練習に毎日全力で取り組んで、みんなでやりきったなぁと思えるように頑張ります」と決意を述べた。

インターハイは8月8～13日、射水市のアルビス小杉総合体育センターと新湊アイシン軽金属スポーツセンターで行われる。

北信越大会でも団体優勝したバドミントン部

女子柔道部 2部門でインターハイに初出場

女子柔道部は、6月5、6日に行われた県高校総体の団体戦で優勝、さらに個人戦63キロ級で牧田千華さん（23H）が優勝し、2部門でインターハイの出場権を獲得した。団体では初めて全国につながる大会に出場し、他校チームより人数が少ない中で優勝。牧主将は「やっと団体で全国に行けると思い、うれしかった」と話す。現在は、怪我をしないようにトレーニングと基本練習に励んでいる。「富山県の代表として、一試合でも多く勝つことが目標」と意気込む。

インターハイは8月8～12日、長野市の真島総合スポーツアリーナ（ホワイトリング）で開催。女子の団体戦は10、11日、個人63キロ級の試合は最終日の12日に行われる。

柔道部女子団体メンバー

女子テニス部 井村さん インターハイ出場

女子テニス部は、6月5～7日に行われた県高校総体の個人戦シングルスで井村萌香さん（36H）が2位となり、インターハイ出場権を得た。

「インターハイでは県大会での悔しさを晴らせるよう、全力で頑張ります」と話す井村さんは、「一つでも多く勝つのが目標。自分の力を出し切って初めての全国の舞台を楽しみたい」と抱負を述べた。

インターハイは8月1～8日、松本市の浅間温泉庭球公園、長野県松本平広域公園（信州スカイパーク）で行われる。

県総体で個人準優勝の井村さん

ボクシング 山本さん ライト級でインターハイへ

山本洋靖さん（37H）が6月5、6日に行われた県高校総体ボクシング競技のライト級（56～60キロ）で優勝し、インターハイへの切符を手にした。

個人でジムに通いながら競技に励む山本さん。今はインターハイに向け、体力をつけたり、足のトレーニングなどを中心に練習している。「目標は、全力で悔いなく試合すること。優勝できるように全力で頑張ります」と決意を新たにしていた。

インターハイは8月7～13日、福井市の福井県営体育館で行われる。

弁論 西脇さん 県代表で総文祭へ

西脇ももこさん（31H）が、7月30日から8月1日にかけて和歌山県高野町の高野山大学で行われる第45回全国高校総合文化祭弁論部門に富山県代表として出場する。

弁士は7分間以内で弁論を行い、7人の審査員によって論旨60点、表現40点の計100点満点で採点される。

「人とつながること」をテーマに訴えかける西脇さん。今は基本の発声や滑舌の練習に励む。「伝えたいことをしっかり伝え、人々の心に響く弁論をしたい」と意気込む。

吟詠剣詩舞 石附さん 総文祭で詩吟披露

石附恵佳さん（32H）が、8月3～4日に和歌山市の和歌山市民会館で行われる第45回全国高校総合文化祭吟詠剣詩舞部門に出場し、富山県チームの一員として構成吟「四季を詠う」を披露する。

3歳の頃から詩吟を習い続ける石附さん。今は毎日、家での練習とともにチームの合同練習に取り組む。「富山がテーマの詩吟を吟じるので、会場にいる人に富山と詩吟の魅力を伝えたい。県代表の名に恥じないよう練習した成果を精一杯出し切りたい」と話す。

放送部 41年連続でNHK杯に出場

放送部は6月19日に行われた第60回県高校放送コンテストで、研究発表部門の優秀賞2位を獲得し、7月27～29日に東京で行われる第68回NHK杯全国高校放送コンテストに41年連続で出場が決定した。

研究発表リーダーの池田朝陽さん（27H）は「全国大会に出場するからには、最優秀賞が目標。悔いのないよう、自分たちができることを全力で出し切りたい」と話した。

また、放送部は8月4、5日に和歌山県かつらぎ町のかつらぎ総合文化会館で行われる第45回全国高校総合文化祭放送部門にもオーディオピクチャー部門で出場する。

第57回体育大会 朱雀団が総合V コロナに負けず熱戦

第57回体育大会が6月16日、「コロナ禍でも心は密に」のテーマのもと行われた。昨年の体育大会は中止となったが、今年は感染対策を図るため例年より大幅に縮小し、競技も工夫して無観客で開催にこぎつけた。

閉会式で結果発表の瞬間、歓喜あふれる朱雀団

朝のうちは天候も心配されたが、爽やかなまずまずのスポーツ日和となった。消毒なども徹底して行われた新競技の一つ、「コロナに負けるな！夏空の下のディスタンス競争」は、テニスボールを載せたおたまを手に平均台の上を通過した後、ドリブル、パンつかみなどを全てクリアするというハードな障害物競走。苦戦する人も続出していた。

午後は各団の応援合戦で幕開け。例年と違い団リーダーだけの応援になったが、どの団も工夫を凝らした応援を披露した。応援優勝したのは朱雀団（赤団）は、チームワーク抜群の切れのあるダンスで見る人を魅了した。応援団長の福田莉愛さん（35H）は「一昨年とは全く違う応援のやり方で、予行練習もなく不安だったが、本番になるとみんな完璧になっていてダントツで格好良かった」と喜びを語った。

総合優勝を勝ち取ったのは、序盤の競技から圧倒的な強さを見せた朱雀団。団長の海内勇作さん（33H）は「今年の体育大会は縮小されたが、競技ごとに全校で盛り上がりをみせる最高のものになった。赤団団長の自分は一番うれしい思いができた」と振り返った。

新聞部は、恒例の体育大会速報（号外）を当日に3回発行した。

【結果】
総　合＝①朱雀団②白虎団
競技の部＝①朱雀団②白虎団
応援の部＝①朱雀団②白虎団
デコの部＝①白虎団②朱雀団
衣装の部＝①白虎団②朱雀団

デコレーション1位の白虎団の作品

朱雀団のキレある応援紹介

新聞部 全国総文祭に25年連続出場

新聞部は、8月4日から6日にかけて和歌山市の開智高校で行われる第45回全国高校総合文化祭新聞部門に出場する。

本校は、昨年12月の「第25回全国高校新聞年間紙面審査」予備審査で入賞し、全国総文祭の表彰参加での出場権を得た。同審査には25年連続で入賞しており、今年の総文祭での本審査でも受賞が期待される。また、全国の高校新聞部員で編成された班で和歌山県内各地を取材し、交流新聞を作成する。

部長の御福春希さん（38H）は「全国の新聞部と交流する新聞作りを通じて、よいところを吸収し自分たちのスキルアップにつなげたい」と抱負を述べた。

他に、北日本新聞に掲載される全国総文祭ニュース「らいちょう」の取材・編集も行う。

女子制服にスラックス登場

女子生徒の制服の着こなしの幅を広げるため、今年度から「女子用スラックス」および「ネクタイ」が追加される＝写真。制作に関わった林香織先生に話を聞いた。

今年の冬までに、女子は制服のスカートの代わりにスラックスを選択できるようになり、これまでは男子のみが着用していたネクタイをつけることができるようになる。

今回の追加のきっかけは、女子生徒から「冬場の登下校の際、肌寒く感じる」という声が上がったことだそうだ。この意見を受け、女子用スラックスを新たに制作することにしたという。

トータルデザインを行ったのは、パリコレの衣装デザインなどにも携わった有名デザイナーの渡辺弘二さん。私たちが現在着ている制服をデザインした方で、本校が共学になった当時の制服もデザインしている。

スラックスでこだわったのは「男子生徒と女子生徒の体つきの違いを配慮し、女子生徒が履きやすい形になっている部分」と林先生。また、ネクタイは、ワンタッチ式と男子同様のものが用意されている。長さや襟の違いなどのバランスを考え、サンプルを実際に試着してもらいながら考案された。

女子用スラックスは年間通して着用が可能。首元の「リボン」「ネクタイ」に関しても選ぶことができる。なお、校内では「スカートにネクタイを着けたい」という声も上がっているようだが、今のところ、ネクタイの着用はスラックスを履く生徒に限り認められる。今後、こういった生徒達の意見も踏まえ、学校側でも検討をしていくとのことだ。【森井波琉】

かざぐるま

近年、シェアリングエコノミー（Sharing economy）という言葉をよく耳にする。これは直訳すると共有経済という意味の単語で、所有しているモノや場所・スキルなどを、インターネットを介して個人間でシェア（貸借・売買・提供）していく新しい経済の仕組みのことだ。有名なものではメルカリやココナラ、カーシェアリングなどがこれに当てはまる★この概念が生まれた背景には、インターネットやスマートフォンの普及により、個人間でのシェアが手軽にできるようになったことがある。国内の市場規模も、2016年度は約500億円だったが、2021年度には倍の1000億円超まで成長した★SDGsへの貢献度合いも大きい。物をシェアするサービスが普及することでゴミが減少し、カーシェアが広がることでエネルギー消費が削減されることも期待されている★私たち高校生にはお金や品物のやりとりは難しいかもしれないが、スキルをシェアするココナラのように、「こんなボランティアができます」と各自がアピールするサイトを作ってみたりするのはどうだろうか。他にも、海外からの移動が制限されている今、富山のどこかへ行きたいというリクエストを受けて、依頼者の代わりにそこへ行って動画を撮影して送信するサービスなど、様々な可能性が考えられる★新型コロナウイルス感染症によって社会が目まぐるしく変化する今だからこそ、こういった新しいサービスが求められている。【永山青空】

9人が立候補 後期生徒会役員選

生徒会役員選挙に投票する生徒達

今年度後期の生徒会役員選挙が6月25日に告示され、あわせて9人が立候補した。投票は7月12、13日に行われた。各候補の公約をまとめた（敬称略）。

【生徒会長候補】（定員1）

稲垣　咲羽（21H）
「つなぐSDGs」「ゴミプロ」「アンケートの充実化」を掲げ、SDGsに興味のある国際生のために、ボランティアに参加しやすい環境作りなどの活動を通して「より良い国際高校」の実現を目標とし、生徒全員の意見を逃すことなく、さらに良い学校生活を目指して活動する。

扇子　慎吾（26H）
前期生徒会の活動を引き継ぐとともに「国際高生徒会のマスコットキャラクターの作成」「SDGs推進運動」「あいさつ運動」を掲げ、前期生徒会会計の経験を活かして生徒会長をサポートし、代議委員の統率を頑張りたいとのこと。また、執行部に堅苦しい雰囲気を作らず、生徒一人一人とのコミュニケーションを図る。

【生徒会副会長候補（定員1）】

金　多恵（21H）
「昼休み異文化音楽放送」「スタディグループ作成」「オンライン料理教室」を掲げている。毎日、「新しい発見」がある学校を目指し、そのための活動を計画、実行する。

南山紗耶加（21H）
「生徒会だよりの充実化」「オンライン意見箱の実施」「生徒の学習意欲の向上」を目標に、生徒一人一人がより過ごしやすく充実した学校生活を送れる環境づくりを掲げる。

波間　モエ（22H）
「サイネージの活用の活性化」「文化祭の活性化」「検定・コンテストへの参加の増進」を掲げ、前期生徒会会計の経験を活かして生徒会長をサポートし、代議委員の統率を頑張りたいとのこと。また、執行部に堅苦しい雰囲気を作らず、生徒一人一人とのコミュニケーションを図る。

【生徒会会計候補（定員2）】

宮内　杏実（21H）
「国際交流の促進」「委員会とのコラボ企画」「生徒会だよりの改良」を掲げる。生徒会活動を通して、生徒がさらに世界に目を向け、様々なことに興味を持ってもらい、「明日も行きたい」と思ってもらえる学校作りを目標とする。

寺村　光生（23H）
「みんなで取り組む身近なSDGs」「服のチカラプロジェクトの参加」「あいさつ運動の実施」を掲げ、生徒全員が自主、自立の精神を大切にする学校を目指す。

工藤　優里（15H）
「学校全体のボランティアの提案及び推進」「SDGsのさらなる推進運動」などを目標に、運動・勉強・行事活動などで生徒どうしが支え合って解決するパートナーシップがとれる学校作りを目指す。

九里　匠音（15H）
「寄付活動の実施」「オンライン意見箱」「あいさつ運動の促進」を掲げ、生徒全員が楽しく学校生活を送ることができ、生徒会活動にも積極的に参加したいと思える雰囲気作りを行う。【小野志音】

今号の紙面
2・3面【特集1】Withコロナ時代 パートⅣ これでいいのか？国際高の感染対策を検証
4・5面【特集2】ヤングケアラーを知っていますか？
6面 岩井選手（2015年卒業生）東京パラ代表に　ほか

特集１ With コロナ 時代 シリーズ Part Ⅳ
これでいいのか？ 国際高の感染対策を検証

新型コロナウイルスの感染が流行して、もう１年半が経とうとしている。収束の兆しはまだ一向に見えない中、大人は感染対策を徹底しろと言うが、果たして何がどのくらい効果があるのか、定かではない。でも、私達はいま慣れっこになってしまって、つい疎かになってはいないか。
これ以上の感染拡大を防ぎ、やがて収束させるまで、私達がすべきことは何か。「これでいいのか？国際高の感染対策」と題して、徹底的に追った。

国際生アンケート
本校は「机の除菌」まだ不十分 ワクチン「しばらく様子見たい」6割

新聞部は、国際生の新型コロナウイルスに対する現在の認識や感染対策などを調査するため、5月末、全校生徒を対象にアンケートを実施した。有効回答数は560人。

Q1．現在、国際高で行われている感染対策は十分だと思いますか？ また、学校で「まだ足りない」と思うものがあれば答えてください。

新聞部が挙げた本校の感染対策のうち、「室内の換気」「消毒液」「マスク着用」「健康調査」「検温機の設置」「トイレのハンドドライヤー使用禁止」の各項目については、約6割の生徒が「十分」と答えた。一方、「机などの除菌」「アクリル板」は、約半数の生徒が「不十分」と答える結果となった。マスクや換気、手指消毒など個人でできる感染対策は十分と答えている人が多いが、机などの除菌、アクリル板の設置といった学校生活を送る上で必要な感染対策が十分だと思っている人は少なかった。

また、「黙食」は、1、2年生は半数の生徒が「十分」と答えたが、3年生では7割の生徒が「不十分」と答えており、学年による違いが出た。安心して学校生活を送れるような感染対策を強化するべきだ。

Q2．コロナ流行初期（昨年春）と比べて、自身の感染対策に変化はありましたか？ その理由も答えてください。

「緩くなった」が10％、「変化なし」が55・4％、「厳しくなった」が34・6％。半数以上の生徒が変化なしと答えた。「変化なし」の理由には、「普段から意識している」や「敏感になり過ぎても良くない」といったものが多く、以前と変わらず感染対策を意識して行っている生徒が多い、という結果が出た。一方で、「緩くなった」の理由として「ずっと感染対策をしてきて慣れてきた」「感染者が身近にいない」などを挙げている生徒もいた。また、「厳しくなった」の理由として「（最近）感染者が増えた」「感染したくない」という意見も見られ、これまで以上に危機感を持っている生徒も少なからずいるということがわかる。

Q3．いま、コロナウイルス感染対策として何か意識していることはありますか？ 「ある」と回答した人は、どんなことですか？（複数回答）

「ある」が73・9％、「特にない」が26・1％となり、「ある」と回答した人が7割を超えた。具体的には「手指消毒」が20・3％と最も多く、「手洗い」18％、「マスクの正しい着用」17・8％が続いた。これまでと同様に、それらが習慣になっている人が多いと考えられる。

Q4．いま、学校で昼食は何人で食べることが多いですか？ また、その際に気をつけていることはありますか？

「4人以上」が35％と最も多く、「2人」23％、「3人」21・1％が続いた。「1人」は20・9％だった。Q1でみられたように、黙食は十分にできていない人が多いが、「向かい合わない」や「食べ終わったらすぐマスクをつける」など、感染防止対策を行いながら食事している人が多いようだ。ぜひこのような感染対策を徹底してほしい。

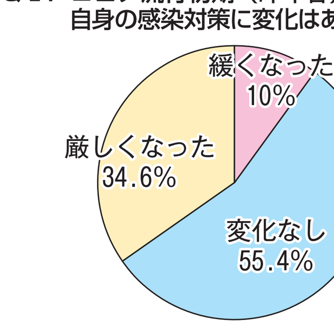
Q5．いま、コロナ禍が原因で困っていることはありますか？ 「ある」と回答した人は、どんなことですか？

「ある」が57・5％、「特にない」が42・5％となった。「マスクの息苦しさ」が15・3％、「外出自粛」が15％と並び、「学校行事の中止」13・7％、「イベントの自粛」12・8％が続いた。外出や学校行事、イベントなどが制限されたことで、多くの生徒が不満を持っていることがわかる。

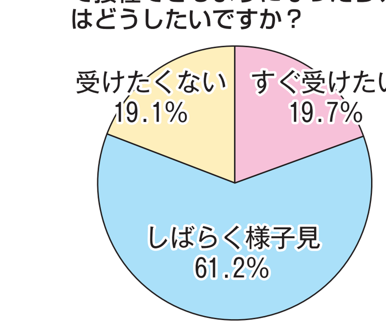
Q6．高校生（16歳以上）もワクチンが無料で接種できるようになったら、あなたはどうしたいですか？ その理由も答えてください。

「しばらく様子を見たい」が61・2％と最も多く、「すぐ受けたい」19・7％と「受けたくない」19・1％が僅差で並んだ。「しばらく様子を見たい」の理由には「副反応が心配」（37人）や「どうなるかわからない」（8人）といったものが多かった。「すぐ受けたい」の理由として「感染したくない」（12人）、「安心したい」（9人）という意見が見られ、一方で「受けたくない」の理由には「信用できない」（8人）という意見が多く寄せられた。ワクチンに対する考えは人それぞれだが、副反応など体調面を心配する声が多くあがっていた。【藤田実呼】

Q２．コロナ流行初期（昨年春）と比べて、自身の感染対策に変化はありましたか？



Q６．高校生（16歳以上）もワクチンが無料で接種できるようになったら、あなたはどうしたいですか？



校内で取り組まれている新型コロナウイルスの感染対策
マスク・消毒など基礎対策徹底を 養護・諸橋先生にきく

新聞部は6月、養護の諸橋未来先生に、校内で取り組まれている新型コロナウイルスの感染対策などについて話を聞いた。

本校の感染対策について話す諸橋先生＝保健室

まず、校内で取り組んでいる感染対策について尋ねた。本校では毎朝、健康調査がメールで生徒に一斉配信されており、生徒の体温、健康状態を担任の先生がチェックしている。自宅で体温を測り忘れてきた場合は、エントランスに設置されているサーモカメラ（検温機）や、各教室に配布されている非接触式の体温計で体温を確認することができるようにしている。健康調査は、特に保健室を利用する生徒の朝からの体調の経過を見る目的のほか、校内の感染流行をいち早く知るためでもあるので、欠席した人も回答してほしいそうだ。

そのほか、校内の各フロアには消毒液が設置してあり、いつでも手指消毒できるようになっている。また、各教室では換気を行うことを徹底しており、ドアに木材を挟んで閉めきらないようにし、その反対側の窓を開けることで空気の流れを作っている。今後は、保健委員が定期的に換気の呼びかけをしてさらに徹底を図るとのことだ。

エントランスで手指消毒や検温をする生徒

廊下のアルコール消毒液

次に、普段の国際生の様子を見て気になるところを聞いてみると、「登校時に消毒液を使用せずに校舎に入っている生徒が多い」ことを指摘した。特に公共交通機関を利用している生徒は、校内にウイルスを持ち込まないように徹底した手指消毒を行ってほしいという。また、各フロアに置かれた消毒液の消費量は、コロナ流行初期に比べ徐々に少なくなっていることを明かし、「こまめな消毒を心がけて」と訴えていた。

また、「昼食時以外にマスクを外している人が増えている」ことも挙げ、「他の対策を行っていても、マスクを外して会話をしていては意味がないので基礎を徹底してほしい。飲食時以外は基本的にマスクを着用し、マスクを外す際は声を発さず、その後は速やかに着用する。体育の時は周りとの距離を十分取ってマスクを外すなど、状況に応じた感染対策を行うことが大切」と強調していた。

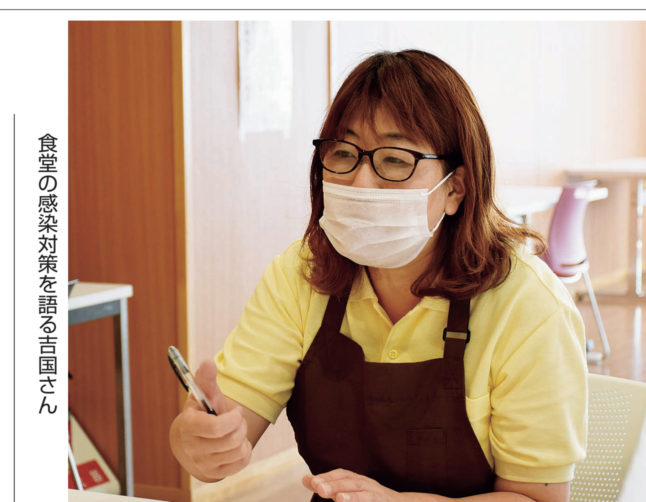
最近は、流行初期に比べ一人ひとりの意識が低下し、廊下や教室でマスクを顎につけたまま会話をする人も見られるようになっている。諸橋先生も、コロナウイルスに対する生徒の認識が甘くなってきていると感じていたという。しかし、新聞部が行った生徒アンケートでは、自身の感染対策が「緩くなった」と回答した人が約10％しかおらず、この結果について諸橋先生は「思っていたより少ないので意外。生徒と感覚が真逆ですね」と驚いていた。

最後に諸橋先生は「コロナ禍で制限されたこと、気を付けなければならないことが多く、みんなストレスが溜まっていると思う。感染予防対策に一人ひとりが意識を持ちながら、疲れた時は休むなど、自分自身の心身の健康にも気を付けてほしい」と私たちにメッセージを送ってくれた。【北岡夏海】

教室ドアの換気の様子。20センチの角材を挟む

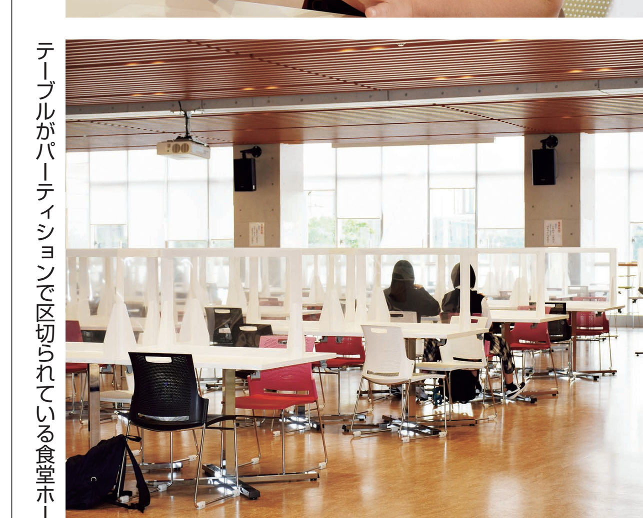
学校食堂の感染対策
パーティション・除菌消毒を強化

新聞部は6月、学内の食堂を運営する㈱フードシステムの吉国昌子さんに、食堂で行われている感染対策について話を聞いた。


食堂の感染対策を語る吉国さん

まず、現在食堂で行われている感染対策について聞いた。昨年より、受付口にビニールカーテンを貼ったり、日替わりのプレートランチを蓋付きで提供したりすることで飛沫感染の対策を行っている。そのほか、箸を使い捨ての割り箸のみ使用するようにしている。さらにテーブルの配置についても、昨年は対面でそれぞれ2人ずつ座ることができていたが、その後、長机で一方向を向いて座るように変更され、今年5月下旬からは学園が用意したパーティションを使ってテーブルを仕切り、飛沫がかからないよう対策された。

また、テーブルの消毒について尋ねると、コロナ流行以前は布巾で拭くだけだったが、流行後はアルコール消毒液で入念に拭いて除菌しているという。現在は、営業前の11時頃に職員の方が一斉に拭き、その後は利用者にセルフで拭いてもらっている。清拭消毒の手順は、学園の学生部によって次のように掲示されている。①ペーパータオルを1枚とる②ペーパータオルに手指消毒液をワンプッシュ吹き付ける③使用した机の上をペーパータオルでよく拭く④使用後のペーパータオルは備え付けのゴミ袋に捨てる。なお、2台の券売機も定期的にアルコール消毒を行っているという。


テーブルがパーティションで区切られている食堂ホール

だが、実際には「テーブルを拭いて除菌している人が少ない。後で使う人が使いやすくなるように意識してほしい」と吉国さんは明かした。

食堂に備え付けられているテーブル消毒グッズ

食堂内にも厳守事項として、「机・椅子の移動や食べ物の交換・共有は禁止、食事前後の手洗いの徹底、各自で机・椅子を清拭消毒する」などがはっきり掲示されている。利用する際は徹底してほしい。

さらに「黙食」について尋ねると「黙食をしている人たちはいるけど、友人と一緒に食べている人もいるので会話がないとは言い切れないですね」と現状を話してくれた。食事中は会話を抑え、飛沫が飛び散るのを防がなければならない。加えて、高校生だけではないが、コンビニを利用する際に、まれにマスクをつけ忘れて中に入る人がいるそうだ。飲食時以外はマスクの着用を徹底することも心がけてほしい。

「昨年は先生の監視や食堂の利用時間の制限により、食堂を利用する生徒が減ってしまっていたが、今年は昨年よりも利用する生徒が増え、食堂で笑顔が見られるようになった」とうれしそうな吉国さん。食堂を利用する側も感染対策をしっかりと意識して、おいしく食事をとりたい。【高田 真】

地鉄バスにきく
車内・乗務員の感染対策徹底 マスク・会話に無頓着な生徒も

国際高では多くの生徒が通学の際にバスを利用している。そこで、バスでの感染対策はどのように行われているのか、利用生徒の意識はどうかなどについて、本校生徒の半数以上が利用している富山地方鉄道㈱自動車部運行管理課の奥村大さんに聞いた。

富山地方鉄道は、新型コロナウイルスに対してどのような感染対策を行っているのか。バス車内で行っている感染対策について尋ねた。

まずは車内の換気。「乗合車両については運行中、一部の窓を約5センチ開放し、乗客の乗り降りの際に乗降ドアを開閉することで車内の空気は約3分間で入れ替わっています。また、運行の合間にも乗降口ドアを開放して車内換気をしています」とのこと。なお、季節（温度・湿度）による換気の違いはないが、大雨・強風時は安全上、乗務員の判断で窓の開放を一時的に中止する場合があるそうだ。

地鉄バスの下校便。多くの生徒が乗車を待つ

次に、消毒について。「車両出入庫時、または休憩時間帯を利用して次亜塩素酸水による手すり・つり革・座席などの消毒を実施しています。特にお客様が乗降時に接触しやすい箇所は入念に消毒を行っています」と奥村さん。その頻度については、当日の運行状況、車両運用状況によるため確定しているものではないが、最低1日3回以上は実施するように指示・指導している、ということだ。

運転手さんが行っている感染対策については、「まず、始業点呼の際、睡眠、薬の服用、前日の飲酒状況なども含めて健康状態を報告する『運行前始業点呼』を旅客自動車運送事業運輸規則に基づき、全乗務員に義務付けています」とのこと。検温・手指消毒を徹底し、うがいも励行しており、体温に異常が見受けられた場合は乗務停止処置が取られるそうだ。さらに、「乗務中はマスクの着用を義務付け、各営業所内ではコロナ感染対策の周知・徹底を図って継続的に日々の点呼においての意識の高揚を図っています」と、細心の注意を払っているようだ。なお、ハード面でも、運転席と客席との間にプラスチックシールドを設置して飛沫感染の防止が図られている。

乗合バス車内の消毒の様子（富山地鉄提供）

そこで、バスを利用している本校生徒の様子や、会社側からの要望などを聞いてみた。「コロナ感染症に対する予防対策として、乗車時はマスク着用や、車内で大声の会話を控えていただくようお願いしたい。特に下校便において、このような状況が見受けられると乗務員から報告を受けている」と明かしてくれた。心当たりのある生徒はいないだろうか。また、「発熱など体調不良がある方のご乗車はご遠慮ください。皆様のご理解とご協力をお願いしたい」と奥村さん。これらはバスに限らず、感染拡大を防ぐには当然のことだ。さらに、「定時性確保と後続バスの交通障害回避の観点から、安全には十分配慮をしながら速やかに乗降してほしい」と付け加えていた。

記者の目

地鉄バスの国際高校線・南富山ルートに乗っている新聞部員は「乗車人数が多いルートは2台運行しているため、車内でもソーシャルディスタンスをより保つことができ、密を避けられるので安心して乗車できる」と話した。また、「運転席と運賃箱の間にプラスチックシールドが設置されていて、運転手さんとの距離が近くなった際や降車する時に心配がない」と強調していた。

富山地方鉄道は、乗務員の体調管理やバス車内の換気・消毒などを徹底し、感染拡大防止に努めている。私たち利用者側も、乗車マナーを守るのはもちろん、マスク着用やできるだけ会話を控えるなどの対策を続けていく必要がある。みんなが安心して乗車することができる車内環境をつくっていこう。【松井胡桃】

富山市保健所にきく
感染対策の継続こそ必要

新聞部は、学校でできる感染対策や、話題となっているワクチンなどについて、富山市保健所地域健康課管理係主事の堀井知貴さんに聞いた。なお、新型コロナ対策に日々忙殺される保健所の業務に配慮し、主にメールで取材を行い、内容によって保健予防課にも協力していただいた。

今日まで実践してきた対策が大切

富山市保健所（富山市蜷川）

新型コロナ感染が再び拡大する今、私たちはどのような対策をすべきなのか。まず学校での感染対策として必要なことを尋ねると、「皆さんが今日まで実践してこられた感染症対策を継続してほしい」と堀井さん。3密を避ける、マスクの正しい着用、手洗いの徹底という個人で取り組める基本的な対策を今後も継続していくのが有効とのことだ。しかし、学校では教室など広さによってどうしても「ソーシャル・ディスタンス」を取ることは厳しい。これについて堀井さんは「ソーシャル・ディスタンスを取ることに限界があるからこそ、正しいマスクの着用、こまめな手洗い・消毒を心がけてほしい」と指摘した。さらに、「黙食ができている人が少なかった」という本校生徒アンケートの結果を伝えると、「食事の際には対面を避け、黙食が難しい場合も静かに飲食するように心がけてほしい」とアドバイスをくれた。

また、本校では感染対策の一環でトイレのハンドドライヤーを使用禁止にしているが、これについて堀井さんは「一般的なハンドドライヤーは非接触式だが、正しく使用しない場合は吹き出し口などに手が触れてしまう可能性は否定できない。しかし、経団連ではWHOがハンドドライヤーの使用を推奨したことなどにより、今年4月13日にオフィスや工場などのトイレに設置したハンドドライヤーの使用停止を求める項目を感染防止ガイドラインから削除した。不特定多数が使用する飲食店などでは、経団連側の対応とは異なることだろう」と答えた。本校で今後、ハンドドライヤーの使用がどうなるかはまだ定かではないが、参考になればとのことだ。

3年生は、やがて県外の大学を受験しに行く生徒も出てくる。しかし、県外へ行くことは感染の危険を伴うことにもなるため、不安な生徒も多いだろう。「県外での受験だからと特別な対策をするのではなく、平時の対策を継続することが重要では」と堀井さん。具体的には、マスクの正しい着用、手洗いの徹底、公共交通機関の利用や受験会場での会話は控えるなどの対策を講じることが重要だと強調した。

学校で感染者が出た場合

次に、学校で新型コロナ感染者が出た場合の対処法について尋ねた。保健所での対処は、感染者本人の行動調査を行い、他者に感染させる期間（発症の2日前以降）に登校していれば学校での接触者調査を行う。また、本人の触れる可能性のある箇所、生徒で共有するものなどの消毒作業を学校側に依頼する。接触者については、接触の状況を調査し、濃厚接触者と判断された人にPCR検査を受けてもらい、最後に感染者と接触があった日から2週間、学校を休むよう伝える。学校は集団生活を送る場であるため、このほかにも広く検査を実施する可能性があるとのことだ。

感染対策を徹底していても、クラスターが発生することはある。もし学校でクラスターが発生した場合は、「基本的には新型コロナ感染者が出た場合と同じことを感染者全員に行うが、クラスターの場合、さらに広範囲に感染が広がっている可能性があるため、検査対象者をより広げることになる」とのことだ。

ただ、これらはあくまで基本的な動きで、実際は富山市保健所の医師を中心とした職員がケースバイケースで対応しているそうだ。

新型コロナワクチン接種の予診票
※太枠内にご記入またはチェック☑を入れてください。
住民票に記載されている住所　都道府県　市区町村
フリガナ　氏名　電話番号
生年月日（西暦）　年　月　日生（満　歳）　□男・□女　診察前の体温　度　分

質問事項	回答欄	医師記入欄
新型コロナワクチンの接種を初めて受けますか。（接種を受けたことがある場合　1回目：　月　日、2回目：　月　日）	□はい □いいえ	
現時点で住民票のある市町村と、クーポン券に記載されている市町村は同じですか。	□はい □いいえ	
「新型コロナワクチンの説明書」を読んで、効果や副反応などについて理解しましたか。	□はい □いいえ	
接種順位の上位となる対象グループに該当しますか。□医療従事者等　□65歳以上　□60〜64歳　□高齢者施設等の従事者　□基礎疾患を有する（病名：　）	□はい □いいえ	
現在、何らかの病気にかかって、治療（投薬など）を受けていますか。病名：□心臓病　□腎臓病　□肝臓病　□血液疾患　□血が止まりにくい病気　□免疫不全　□その他（　）　治療内容：□血をサラサラにする薬（　）□その他（　）	□はい □いいえ	
その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいと言われましたか。	□はい □いいえ	
最近1ヶ月以内に熱が出たり、病気にかかったりしましたか。　病名（　）	□はい □いいえ	
今日、体に具合が悪いところがありますか。　症状（　）	□はい □いいえ	
けいれん（ひきつけ）を起こしたことがありますか。	□はい □いいえ	
薬や食品などで、重いアレルギー症状（アナフィラキシーなど）を起こしたことがありますか。薬・食品など原因になったもの（　）	□はい □いいえ	
これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか。種類（　）　症状（　）	□はい □いいえ	
現在妊娠している可能性（生理が予定より遅れているなど）はありますか。または、授乳中ですか。	□はい □いいえ	
2週間以内に予防接種を受けましたか。　種類（　）　受けた日（　）	□はい □いいえ	
今日の予防接種について質問がありますか。	□はい □いいえ	

新型コロナワクチン接種希望書
医師の診察・説明を受け、接種の効果や副反応などについて理解した上で、接種を希望しますか。（□接種を希望します・□接種を希望しません）
この予診票は、接種の安全性の確保を目的としています。
このことを理解の上、本予診票が市町村、国民健康保険中央会及び国民健康保険団体連合会に提出されることに同意します。
年　月　日　被接種者又は保護者自署

ワクチン名・ロット番号　接種量　実施場所・医師名・接種年月日
※枠に合わせてまっすぐに貼り付けてください
（注）有効期限が切れていないか確認
実施場所　医師名　医療機関等コード
接種年月日　※記入例）4月1日→04月01日　202□年　月　日

ワクチン接種の予診票。接種には署名して同意することが必要

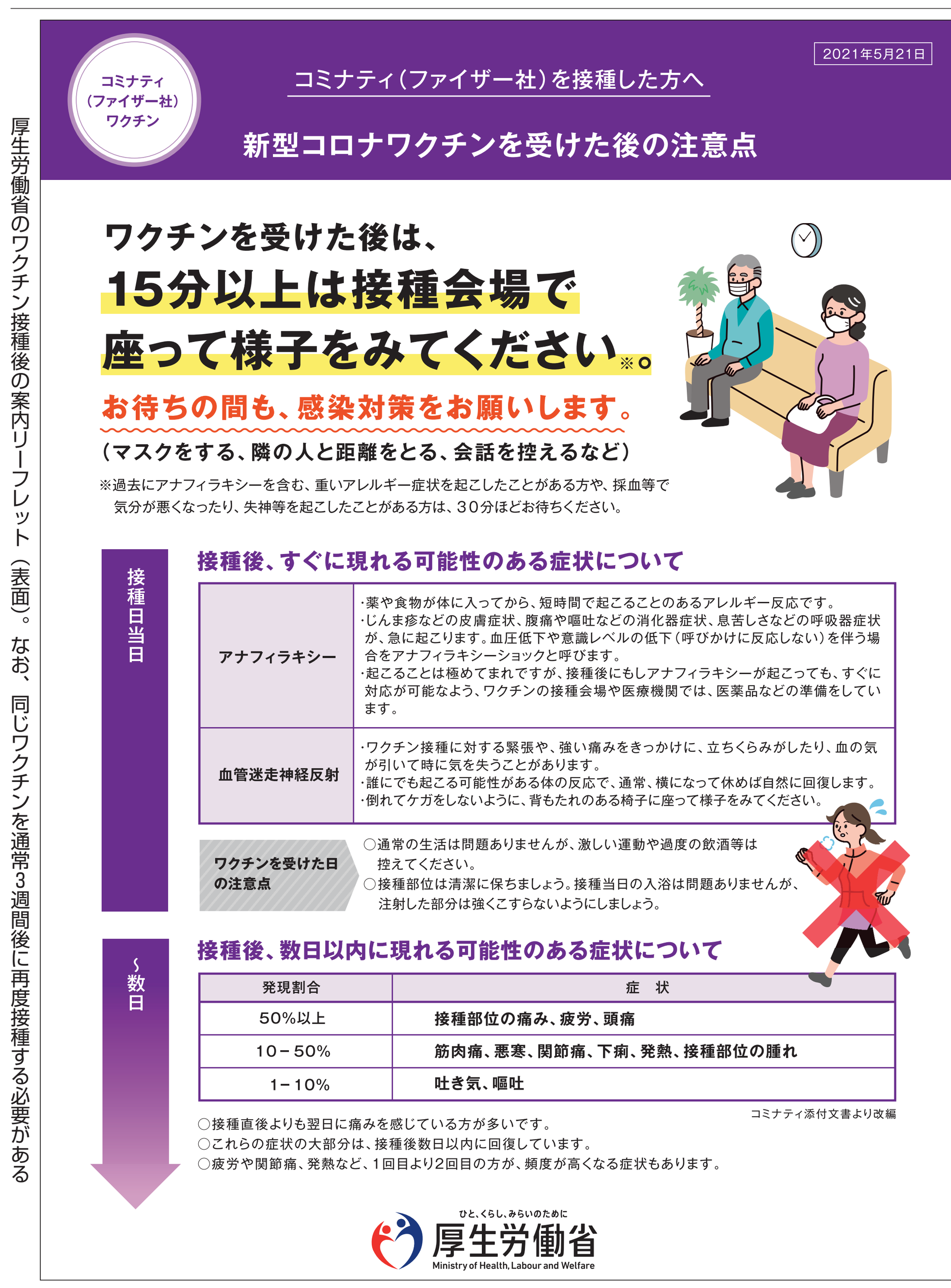
高校生のワクチン接種 いつできる？
情報収集し自らの判断で

今日、多くのメディアでワクチンの話題が取り上げられており、接種時期や副反応、製造会社、接種会場などについて、毎日ひっきりなしに報道されている。私たち高校生は、いつワクチンを接種できるのかを尋ねた。「高校生のワクチンの接種時期は今のところ未定。一部市町村ではすでに接種を受けている人もいる。ただし、基礎疾患を有し通院・入院中で、今年度中に16歳から18歳になる人については、新型コロナウイルスワクチン接種券発行申請書を提出するか、富山市新型コロナワクチン接種特設サイトから電子申請をすることによって、7月下旬に接種券を送付する」とのことだ。

ワクチンは、接種前に「新型コロナワクチン予防接種についての説明書」を読み同意した上で、医師が予診をし、接種可能と判断した場合に接種という流れとなる。現在、富山市で接種されているワクチンはファイザー社製。現在、予防接種法に基づいて18歳未満の人に接種できるのはファイザー社製のものだけだという。なお、他のワクチンの接種対象年齢の拡大は発表されていないとのことだ。

本校でも心配している人が多い副反応について尋ねると「市内全ての副反応は把握していないが、集団接種では重篤な副反応は報告されていない」との回答を得た。さらに、「新型コロナウイルスワクチンの接種は強制ではありません。皆さん自身でも情報を収集し、メリットとリスクを理解したうえで接種するかどうかを決めてほしい」と強調していた。

新聞部で富山市新型コロナワクチン接種特設サイトを確認すると、「ワクチンについて」「副反応」のコンテンツからワクチンに関する一般的な情報について知ることができるようだ。これらを活用し、自らの意思でワクチン接種を受けるなど、感染対策に努めることが必要だ。【原 千恵】


コミナティ（ファイザー社）ワクチン
コミナティ（ファイザー社）を接種した方へ　2021年5月21日
新型コロナワクチンを受けた後の注意点

ワクチンを受けた後は、15分以上は接種会場で座って様子をみてください※。
お待ちの間も、感染対策をお願いします。
（マスクをする、隣の人と距離をとる、会話を控えるなど）
※過去にアナフィラキシーを含む、重いアレルギー症状を起こしたことがある方や、採血等で気分が悪くなったり、失神等を起こしたことがある方は、30分ほどお待ちください。

接種日当日
接種後、すぐに現れる可能性のある症状について

アナフィラキシー	・薬や食物が体に入ってから、短時間で起こることのあるアレルギー反応です。・じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が、急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下（呼びかけに反応しない）を伴う場合をアナフィラキシーショックと呼びます。・起こることは極めてまれですが、接種後にもしアナフィラキシーが起こっても、すぐに対応が可能なよう、ワクチンの接種会場や医療機関では、医薬品などの準備をしています。
血管迷走神経反射	・ワクチン接種に対する緊張や、強い痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が引いて時に気を失うことがあります。・誰にでも起こる可能性がある体の反応で、通常、横になって休めば自然に回復します。・倒れてケガをしないように、背もたれのある椅子に座って様子をみてください。

ワクチンを受けた日の注意点
○通常の生活は問題ありませんが、激しい運動や過度の飲酒等は控えてください。
○接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、注射した部分は強くこすらないようにしましょう。

〜数日
接種後、数日以内に現れる可能性のある症状について

発現割合	症　状
50%以上	接種部位の痛み、疲労、頭痛
10−50%	筋肉痛、悪寒、関節痛、下痢、発熱、接種部位の腫れ
1−10%	吐き気、嘔吐

コミナティ添付文書より改編
○接種直後よりも翌日に痛みを感じている方が多いです。
○これらの症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。
○疲労や関節痛、発熱など、1回目より2回目の方が、頻度が高くなる症状もあります。
ひと、くらし、みらいのために　厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare

厚生労働省のワクチン接種後の案内リーフレット（表面）。なお、同じワクチンを通常3週間後に再度接種する必要がある

県内の高校にきく
基本的な対策しっかり 「黙食」徹底やフローチャート作成の学校も

新聞部では、県内の他の高校の新型コロナ感染対策を探るため、11校の新聞部顧問の先生方に聞き取り調査した。（学校は順不同）

［質問］
①現在、先生の学校で行っている感染対策で、徹底されていると思うものは何ですか？
②同じく、感染対策でまだ足りていないと思うものは何ですか？
③コロナ流行初期（昨年春）と比べて、先生の学校の生徒達の感染防止意識に変化はありますか？

県立・富山北部高校
①清掃時　机の上のアルコール消毒
②昼食時に対面で食事をしている生徒が若干名いる
③厳しくなった

私立・富山第一高校
①食堂、教室での昼食は一方向を向いて食べる。昼に必ず校内放送がかかり、担任が教室、副担任が食堂を見に行くなどしている。
②放課後、部活動中による密な行動までは指導できない。
③変化なし

県立・呉羽高校
①マスクの着用は徹底されていると思っているが、運動部の生徒達が着替えている時などはマスクを外していることが多いと思う。
②ソーシャルディスタンス。あまり耳にしなくなった。
③緩くなった

県立・高岡高校
①健康チェック（毎朝のクラスでの確認＋個人のチェックシート記入）、清掃時のアルコール消毒
②マスク着用の徹底（体育授業後、昼休みなど）
③厳しくなった

県立・高岡南高校
①朝の健康観察、手洗い石けん・消毒液の設置、手洗い消毒、昼食時の一斉手洗い、一斉黙食
②マスクの使用法
③変化なし

県立・福岡高校
①健康観察
②机などの使った場所の消毒
③緩くなった

県立・砺波高校
①マスクの着用
②近くで喋る、じゃれ合う
③緩くなった

県立・砺波工業高校
①生徒玄関にアルコール消毒液を設置し、登校時に消毒。各教室前、トイレ前、職員室、食堂前等にアルコール消毒液を設置。生徒が各自でアルコール消毒をするように指導している。
②気温が高くなってきたこともあってか、マスクを外している生徒も以前より増えてきた。
③緩くなった

県立・南砺福野高校
①マスク着用（体育、部活動は除く）
②食事中の会話（つい友人と話してしまっていたり、向き合っていたりする）
③変化なし

県立・石動高校
①マスクの着用、集会時の密集回避、消毒、健康観察
②夏に向けての熱中症対策との両立。換気やマスクなど、矛盾点が多い。
③変化なし（一度は緩んだが、県内での春の再流行で引き締まった）

県立・小矢部園芸高校
①朝の検温や黙食、手指消毒、放課後に教育支援員が机・椅子・ドア・手すりの消毒を行っている。そのほか、洟をかんだ紙、マスクなどからの飛沫感染防止のため、生徒は各自ゴミを持ち帰っている。また、考査の際は座席を机ごと移動しており、選択授業では着席前にアルコール消毒を行っている。例年、5月の意見発表会・授業は保護者が参観可となっていたが、今年度は審査員の保護者のみ意見発表会に参加、授業参観は中止となった。
②現在、考え得る対策はとっているという状況なので、他校の対策を聞いて足りないところを知りたいです。
③変化なし

記者の目

多くの高校がマスク着用、手洗い、手指消毒など基本的な感染対策を徹底しており、健康観察を行っている高校も多い。また、高岡南、小矢部園芸、富山第一の各高校では昼食時の感染対策を多く取り入れており、中でも富山第一では昼食時に先生が見回りを行うなど、黙食を徹底している。

一方で、どの学校も部活動時のコロナ対策が問題視されている。これからの季節は特に、運動中のマスク着用は熱中症の恐れがあるため、強要はできないのが実状だ。

また、質問③では「緩くなった」「変化なし」と回答した学校が多かった。「変化なし」と回答した高校の中でも高岡南は、登校してから下校するまでの感染対策のフローチャートを作成したほか、昼食時は一斉に手洗いを行い、各自自分の席で食事をとるなど、高い感染防止意識を持っているようだ。しかし、昨年より徹底しているというマスク着用について、ウレタンマスクのコロナ防御効果や部活動時・部活動後のマスクの使用実態を考慮すると、プラスマイナスで「変化なし」となるそうだ。また、高岡南の先生は「学校は集団になるための場所のため、対策の厳格な実施は非常に困難です」と感染対策に対する苦悩を語った。富山でも感染が再流行しているため、まだまだ油断できないようだ。【石附恵佳】

特集まとめ
地道な感染対策の積み重ねこそ必要

3年生の私は、思い返せば新型コロナウイルスのせいで「不自由な高校生活」を強いられて、もう1年半になろうとしている。

今は学校に行けるが、毎日マスクを着け、前のように友達と大声で笑い合うことはできない。休みの日にも自由に出かけられず、行事やイベントも中止や延期…。このコロナ禍の影響で、中等度以上の「うつ症状」がある高校生の割合が30％にのぼることが今年2月、国立成育医療研究センターによる調査報告から明らかになったという。

新聞部では1年前から、「Withコロナ時代」と銘打っていくつかの特集を組んできたが、感染が収束する兆しは今もまだ見えない。それどころか、よく分からないギリシア文字を名に冠した変異株が猛威を振るう始末だ。頼みの綱と言われるワクチンも、全国的に急ピッチで接種が進んでいるものの、私たち高校生はいつになるのか、現時点では見当もつかない。

そこで今回、新型コロナウイルスの感染対策に立ち返り、様々な視点から現状の整理・見直しをすることで、改めて感染拡大を防ぐ意識を高めてほしいと考え、この特集を組んだ。

新聞部が行った全校アンケート調査では国際高の感染対策について、約6割の生徒がマスク着用や換気といった基本的な対策は「十分」と回答。その一方で、「机などの殺菌」、「アクリル板」などは過半数が不十分と考えていた。さらに、昨年春の流行初期と比べた自身の感染対策については、過半数が「変化なし」だったが「緩くなった」という回答も10％。コロナ禍での生活に慣れたことで、対策が緩くなっている生徒がわずかにいるようだ。また、自身のワクチン接種については、約6割の生徒が「様子を見たい」と回答。副反応や、喘息などの基礎疾患の重症化の心配など、慎重に見極めたいという意見が多く見られた。

そこで、県内他校の新聞部にそれぞれの高校で行われている感染対策を聞いたところ、やはり基本的な対策が徹底されていたが、一部の高校では昼食時の感染対策も徹底し、本校では4割程度の生徒しかできていない「黙食」を取り入れているところもあった。

これらの結果を踏まえ、富山市保健所に取材すると「これまで続けてきた感染対策を継続してほしい」とのこと。新しい対策を導入するよりも、マスク着用や手指消毒、食事の際の黙食などといった、基本的な対策の継続・徹底こそが大切だ。今一度、自身の感染対策を振り返ってみてほしい。

そして、自身の感染予防のみならず、集団免疫を獲得すると期待されているワクチン。高校生の接種について尋ねると、「接種は強制ではない。（接種できる時期になったら）メリットとリスクを理解した上で接種するかどうかを判断してほしい」とのこと。しかし、高校生のワクチン接種例はまだ非常に少なく、判断が難しいのが現状だ。普段からネットやニュースで情報を収集し正しい情報を見極め、「同調圧力」には惑わされないで接種するかどうかを自身で判断してほしい。

今回の特集では、新型コロナウイルスの感染対策を生徒、学校、そして保健所の3つの視点から検証し、今後の取り組みを見直すきっかけとすることができた。基本的な感染対策は引き続き徹底し、不十分な対策は今後改善していく。地道な対策の積み重ねが感染拡大を抑制することにつながるのではないだろうか。再びマスクを着けなくてもいい時を迎えるために。【御福春希】

特集2　YOUNG CARER　ヤングケアラーを知っていますか？

最近、よく耳にするようになった「ヤングケアラー」という言葉。ヤングケアラーとは、通学や仕事のかたわら、障がいや病気のある家族などの介護や世話をしている18歳未満の子どものことを指す。厚生労働省が昨年12月から初の実態調査を実施し、全国の中学２年生の６％、高校２年生の４％がヤングケアラーに該当するという結果が今年４月に公表された。この結果を受け、政府もようやく実態を踏まえて支援を検討していく、と述べた。

新聞部では本校の実態を調査し、「同世代の私達ができること」を考えていく。

国際生アンケート　「ヤングケアラー」聞いたことない8割　心配・同情の声

国際生は、「ヤングケアラー」についてどのくらい知っているのか。新聞部は5月下旬、全校生徒を対象にアンケート調査を実施した。有効回答数は642人。

Q1．ヤングケアラーという言葉を聞いたことがありますか？

全体では「はい」と答えた生徒が21・2％、「いいえ」と答えた生徒が78・8％という結果になった。全校生徒の8割近くが、ヤングケアラーという言葉を耳にしたことはないようだ。なお、男女で回答に大きな差はなかった。

Q2．どこでその言葉を耳にしましたか？

全体では「テレビ」が40・9％、「インターネット」が30・1％、「新聞」が14・8％、「友人や家族との会話」が8％だった。テレビやインターネットなどのメディアを通して知っている人が多く、全体の約7割を占めていた。またQ1と同様、男女で回答に大きな違いは見られなかった。

Q3．ヤングケアラーをどの程度知っていますか？

全体では「メディアを通して知っている程度」が53・6％、「ヤングケアラーという言葉を耳にしたことがある」が44・8％、「ヤングケアラーとして取材を受けたことがある」が1・6％という結果になった。ヤングケアラーを知っている生徒の中でも、約半数が耳にしたことがある程度で詳しい内容は知らないと回答しており、国際生のヤングケアラー認知度はかなり低いと言える。なお、男子の6割が「ヤングケアラーという言葉を耳にしたことがある」と答えているのに対し、女子の6割は「メディアを通して知っている程度」と回答していることから、男女で認知度に大きな差があるようだ。

Q4．ヤングケアラーについて思ったこと、感じたことはありますか？

全体では「学校に通いながらの介護は大変そう」「自分のことをする時間がなくなるのはかわいそうだ」といった、ヤングケアラーを心配したり同情したりする回答が多く見られた。また、同世代の人に起きていることに対し「自分は恵まれていることを実感した」「自分にはできないことだと思う」などといった回答も見受けられた。自らの生活環境との違いを痛感した生徒が多いことがうかがえる。

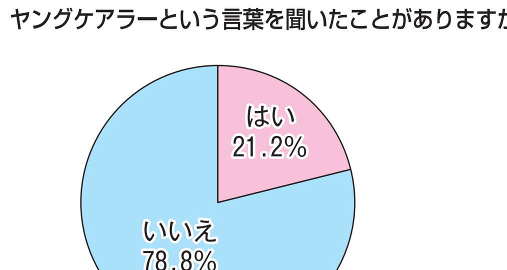
Q5．ヤングケアラーの数を減らすために、できることはありますか？

全体では「はい」と答えた生徒が77・1％、「いいえ」と答えた生徒が22・9％と、多くの生徒が自分たちにもできることがあると回答している。社会問題を自分事として捉えている国際生が多いようだ。なお「はい」と答えた女子は83・5％、男子は65・5％と、女子に比べて支援ができると答えた男子は少なかった。

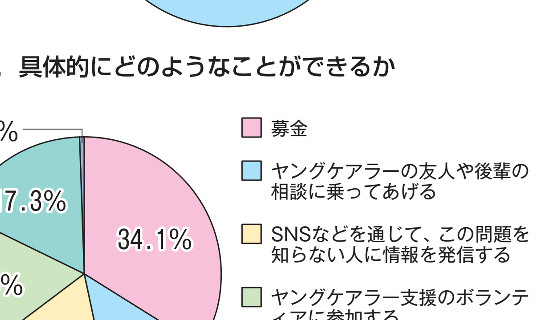
Q6．（Q5ではいと答えた人は）具体的にどのようなことができると思いますか？

全体では「募金」が34・1％、「SNSなどを通じて、この問題を知らない人に情報を発信する」が18％、「ヤングケアラー支援のボランティアに参加する」が17・6％、「ヤングケアラーに関する知識を身につけ、支援策を考える」が17・3％、「ヤングケアラーの友人や後輩の相談に乗ってあげる」が12・7％という結果となった。募金という意見が大多数を占めていたが、SNSを通じた支援をするなど、若者ならではの意見も目立った。【柳澤和音実】

Q１．ヤングケアラーという言葉を聞いたことがありますか



Q６．具体的にどのようなことができるか



学校全体で支える仕組み必要　相談室・中松先生にきく

ヤングケアラーの生徒に対して、私たちはどのような対応をしていくべきだろうか。本校でのヤングケアラーに対する支援・対策について、新聞部は教育相談室のカウンセラー、中松耕二先生に話を聞いた。中松先生は県立学校でも長年、特別支援教育に携わってこられた。

本校のヤングケアラー問題について話す中松先生＝相談室

「本校にも他校にもヤングケアラーだと思われる生徒は一定数おり、そういった生徒からの相談に乗ったこともあります」とこれまでの経験を語る中松先生。しかし、ヤングケアラーに関することが相談のメインだったというわけではなく、あくまで別の悩みの相談を受ける際に、間接的に扱うというケースが多かったそうだ。中松先生は今後、本校でより充実したヤングケアラー支援を行うため、早期把握のための相談体制の充実とともに、校内委員会の設置や職員研修会の開催など校内体制の充実を図っていくべきだと話した。つまり、相談室という枠組みを越え、学校全体でヤングケアラーの生徒を支えていく仕組みづくりが大切だということだ。

また、中松先生は「一人一人、置かれている状況は異なっている。だからこそ、個々の状況に応じた支援方法を検討し、それを推し進めていくべきだ」とも語った。全ての生徒に同じような対応をするのではなく、生徒一人一人の置かれた状況に寄り添った支援をすることが求められるということだろう。そのような支援をする際、中松先生自身が意識していることは「傾聴」。「傾聴」とは、相手の言うことを否定せず、耳も心も傾けて相手の話を「聴く」会話の技術のことだ。これをすることによって、安心して相談できるという生徒が増えると考えられる。

さらに、国や自治体の行政がすべきだと思うことについては「早期把握のための的確な現状把握や、相談支援・家事育児支援・介護サービスの提供などの支援策の推進、ヤングケアラーの社会的認知度の向上」を挙げた。

しかし、中には自分がヤングケアラーだと切り出す勇気がなく、なかなか人に悩みを打ち明けられない生徒も少なからずいるはずだ。このような現状を改善するためには「ヤングケアラーという言葉をみんなが知っている状況を作るのが大切だ」と中松先生は語る。周囲からの理解がある状況であれば、ヤングケアラーの生徒も悩みを相談しやすくなるはずだ。

そこで、新聞部が行った生徒アンケートで約8割の生徒が「ヤングケアラーという言葉を聞いたことがない」という結果を踏まえ、認知度の向上のためにすべきことを聞いたところ、中松先生は「ヤングケアラーの認知度はまだまだ低いですね。例えば、ヤングケアラーとそうでない人が共に参加できるようなイベントを開催していくべきだ」と答えた。交流の場を作ることは、ヤングケアラーの認知度向上に向けて欠かせないことであり、今後さらに必要になっていくと考えられる。

今後、ヤングケアラーの生徒から相談を受けることがあった場合、具体的にどのような対応を行おうと思っているのかを聞いたところ、「現状を見極めながら個々の問題点を整理し、生徒の心情に寄り添って負担軽減に向けて対応策を一緒に考えたい」。的確な状況把握を行い、一人一人の置かれた境遇に寄り添いながら一緒に対応策を考えることで、生徒の気持ちも和らぐと推測できる。さらに、必要に応じて支援機関や支援窓口を紹介したり、本人の了解を得られれば全校体制の支援も視野に入れたりするそうだ。

「相談したいときに相談できる環境」を作ることをモットーにしている中松先生。困っている人は相談してみよう。【藤井彩花】

ヤングケアラーとは

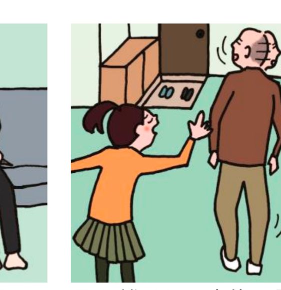
家族にケアを要する人がいる場合に大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どものこと。ケアが必要な人は主に、障がいや病気のある親や高齢の祖父母だが、きょうだいや他の親族の場合もある。（日本ケアラー連盟の定義による）

日本ケアラー連盟によるヤングケアラーの類型　©一般社団法人日本ケアラー連盟

障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている

家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている

障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている

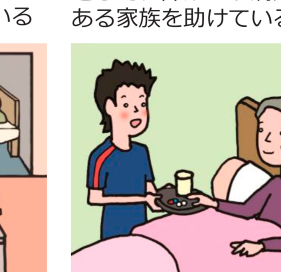


目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている

日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている

家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている

アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている

障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている

障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

ケーススタディ　国際高に在籍したヤングケアラー　本人は当たり前と認識し無自覚？

国際高ではこれまでに、どんなヤングケアラーの生徒がいたのか、それらの生徒にどのような対応をしたのか。新聞部では、何人かの先生に聞き取り調査をし、本校ならではのヤングケアラーの実態が浮かび上がってきた。

本校相談室。生徒が相談しやすい環境がつくられている

ケース①　家族のために通訳している生徒

●それらの生徒は複数知っているが、ヤングケアラーであることが原因で日々の学校生活に支障が出ているというほどではなかった。外国籍の生徒は、学校生活において生徒どうしでコミュニケーションをとることによって、日本語を上達させることができる。しかし、その保護者が日本語を理解できないというケースが多く、学校からのアンケートに回答してもらう時や三者面談をする時などは生徒側に通訳を頼む必要があった。その点が大変だったように感じる。そのような生徒はフィリピン、インドネシア、ブラジル、パキスタン、ロシア、中国の国籍を持った生徒に見受けられ、どこかの国に格段に多くいるというわけではなかった。

現在、本校では事務室に翻訳機（ポケトーク）を設置したり、外国籍の生徒達が学びやすい環境づくりに力を入れたりと、バリアフリー化を推進している。今後は書類に英語表記を加えるなど、より一層バリアフリー化を進めていく必要があると思う。それが、そのようなヤングケアラー支援にもつながっていくと考えられる。

さらに、ヤングケアラーの生徒の中には「自分は困っている家族を助けるという、当たり前のことをしているだけだ」という認識を持っている子が多いように感じる。今後はそのことを踏まえて支援をしていくことも重要だと思う。（S先生）

●5、6年前にブラジル人の母親を持つ女子生徒がおり、何日間か欠席している時期があった。母親が足を怪我してしまったため、1学期末の7月頃、自宅に成績表を渡しに行った。その家庭訪問で、母親がポルトガル語しか話せないということを知った。後日、その生徒の欠席が続いていた時期があったのも、母親の入院手続きのために通訳をするためだったと分かった。今後、そのようなヤングケアラーの生徒を救うため、例えばそんな時は欠席扱いにしないなどという制度を充実させるべきだ。（T先生）

●ブラジル、パキスタン国籍の生徒にそのようなヤングケアラーが多く見受けられた。特に6、7年前の頃のフロンティアコースで多かったと思う。ブラジル国籍の生徒は、家族が病院に行く日は通訳として必ず学校に連絡して欠席していた。気がかりだったのは、その生徒の家族が欠席することを当たり前に思っていたということ。なお、パキスタン国籍の生徒もビザの問題で、家族の通訳をするために欠席していた。そういった生徒の支援をするため、行政書士で英語の査証関係の仕事をしておられる方の事務所の連絡先を教えた。そこで混み合った話になった時には、自分自身が英語、日本語の通訳として同行したこともある。

ヤングケアラー問題を解決するための第一歩として大切なのは、真摯に聴いて理解しようとする姿勢。また、学校側はヤングケアラーとして通訳に出向く生徒を公欠扱いにしたり、その手伝いに教諭が出向いた場合は出張扱いにしたりするといった仕組みづくりを推進していく必要があると思う。仮に公欠扱いが可能になれば、サポーターバンクのような人材登録を構築し、誰か手の空いているボランティアが電話1本でそのヤングケアラーの通訳に同行できるような連絡体制を作るべきだと思う。（H先生）

ケース②　幼いきょうだいの世話する生徒

●母親がいない家庭で、妹を含む家族の食事を毎日2食分作っている男子生徒がいた。その生徒は友達と遊ぶ時も早く帰ったり、料理のレシピを誰にも教えてもらうことができなかったりと、様々な面で大変な思いをしていた。しかし、ヤングケアラーの問題は「大変そう」や「可哀想」と思うだけでは解決しない。問題の根本的な解決のため、社会全体で何らかの対策を講じていく必要があると思う。（A先生）

ケース③　労働して病気の家族支える生徒

●平日3〜4時間、休日は8時間働いているという生徒や、週に2回ほどアルバイトをしているという生徒など、家計を支えるために働いている生徒はこれまでにかなり見てきた。そのような生徒の中には、研修旅行のためのお金を自分でやりくりしたり、奨学金を利用して進学したりと、自分から積極的に行動を起こしている生徒もいた。一方で、時には周囲の人に助けを求めるなど、自分から声をあげることも大切だと思う。（A先生）

行政　ヤングケアラーどう支える？　スクールカウンセラー　スクールソーシャルワーカー

もっと関心持って　助け求め相談しやすい雰囲気を　国際大　村上　満　教授にきく

新聞部は、ヤングケアラーの具体的な解決法、支援について知るため、隣接する富山国際大学子ども育成学部でスクールソーシャルワーク（児童・生徒の問題に対し、環境面からサポートして解決を図る専門技術）を専門としている村上満教授に話を聞いた。

ヤングケアラーの対処について熱く語る村上教授＝富山国際大学子ども育成学部

村上先生は大学での講義や研究のほか、本校をはじめ、富山市内を中心にいくつかの学校でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとしても活躍している。

スクールカウンセラーについては、小中学校が週に4時間に対して、高校は月に2時間ほどしか滞在しておらず非常に短時間。その理由として村上先生は「高校生は自立ができていると思われているからではないか」と話したが、「でもそんなことはなく、高校生だからこそより複雑な問題を抱えていることもあるため、改善が必要です」と強調していた。

これまで、村上先生が実際に相談を受けたヤングケアラーの事例として、富山市内の中学生が病気の母親の代わりに食事の準備や家事を行い、その疲れのために登校できなかったり、寝坊をして遅刻したりして、「精神的にしんどい」と助けを求めた、というケースを挙げてくれた。村上先生はその家庭にヘルパーを入れ、親子と一緒に朝ご飯の準備や部屋の片付けをするようにし、徐々に今の生活が普通でないことを気づかせて自立ができるようにしたのだという。

ヤングケアラーの支援には、大きく分けて「フォーマルな支援」と「インフォーマルな支援」の2つがあるそうだ。フォーマルな支援とは、スクールソーシャルワーカーや相談窓口などの自治体レベルで行うもの。一方、インフォーマルな支援とは家族や友達との助け合い、NPOの活動など、公的なものではない支援だ。村上先生は、私達生徒でもできることとして「ヤングケアラーに関心を持つこと」を挙げた。さらに、ヤングケアラーの当事者に対しては暗いイメージではなく、「頑張っていてえらい、凄い」という良いイメージを持ち、当事者が助けを求めやすい雰囲気を作ることが大切だ、と語った。

また、学校の先生方が取るべき対策についても見解を尋ねた。「いつも生徒の様子を見て、少しでも変わったところや違和感があれば、早めに対応することを心がけていただきたい」と村上先生。ヤングケアラー問題解決に向け、先生からのアプローチも重要な役割を果たすということだ。インフォーマルな支援については「個人で本格的な支援を行うことは難しい。しかし、だからこそ、スクールカウンセラーだけでなくスクールソーシャルワーカー、さらにはスクールロイヤー（学校の法的問題を解決する弁護士）などの専門家も交えて対策を練ることが、これからの対応として大事だ」と語った。

現在、様々な理由によって不登校になっている生徒がたくさんいる。ヤングケアラーが不登校になる主な要因としては、家族のケアによって登校がままならなくなっているというのが挙げられる。村上先生は「学校へ行きたいのに行けないのと、行きたくないから行かないのは全然違う。学校を長期間休んでいるから不登校、とひとまとめにするのではなく、その中で原因を整理し、問題をいち早く解決することが必要だ」と強調した。また、「自分がヤングケアラーだという自覚がなかったり、周囲に相談しづらいという状況が事態をより悪化させたりするということがよくある。それを防ぐために、みんなでヤングケアラーについて知り、周りに悩みを相談しやすい雰囲気を作っていきましょう」と呼びかけていた。【橋本　結】

本格的な実態調査・施策これから　富山県

ヤングケアラーに対して、富山県ではどのような支援を考えているのか、また、私たち高校生ができることは何かについて、富山県厚生部子ども支援課主幹・課長補佐の土居洋子さんと、私立学校を所管する経営管理部学術振興課主幹の穴田直人さんに話を聞いた。

富山県の対応などについて話す土居さん（左）と穴田さん＝富山県庁

はじめに、県が行っているヤングケアラーへの対応や支援の内容について、土居さんに聞いた。県の現在の取り組みとしては、児童相談所に設置している24時間対応の電話相談がある。必要に応じて市町村の支援機関につなぐなど問題解決のために尽力しているそうだ。さらに、「子ども・若者総合相談センター」を設け相談に当たっているほか、専門性向上のために職員の研修を行い、日々対応の質を向上させているという。

ただ、現時点では国の方でもヤングケアラーに関する調査報告がされた段階で、本格的な実態調査や具体的な施策はこれからの課題になる。行政が新しい支援をしていくためには予算が必要不可欠だが、それについてもこれから議論されることになるようだ。

私たちのような高校生が、ヤングケアラーの友人に対してできるサポートは何かについて、穴田さんは「まずはヤングケアラーという言葉について知ることがとても大切」と答えた。一人一人がヤングケアラーについて理解し、「苦しかったら声を上げてもいい」という環境をヤングケアラーと同世代の生徒がつくっていくことが大きなサポートになる。ヤングケアラーの早期発見にも効果的で、結果として彼らの負担の軽減にもつながる、と話してくれた。

そこで、新聞部が行ったアンケート調査の「生徒全体の8割がヤングケアラーという単語を聞いたことがない」という結果を伝えると、土居さんと穴田さんはともに「大変興味深いデータです。ヤングケアラーの認知度はまだ低い。SNSや新聞などで、一人でも多くの人がヤングケアラーを認知してほしい」と話した。

学校側ができる支援や対策については、学校はヤングケアラーの情報を得るための大切な場所で、生徒に一番近い存在である先生がその状況を敏感に感じ取り、スクールソーシャルワーカーや児童相談所などの専門的な機関につなげることを重要視しているという。だが、学校だけではヤングケアラーの生徒を見つけ、対応するのは難しい。そこで最近、県が立ち上げた子ども・若者相談センターはメールやSNSを通じた対応も行い、気軽に相談しやすい環境にしていくとのことだ。

また、自分がヤングケアラーであるにも関わらず、その自覚のない子どもへの対応について尋ねると、土居さんは「ヤングケアラーかどうかの判断は難しく、決めつけて対応すると相手の子どもや親を傷つけるおそれもあるため、直接ではなく、スクールソーシャルワーカーや市町村の担当窓口に相談してほしい」と話してくれた。【小野志宣】

県内の高校の先生10人に聞きました　ヤングケアラーへの対処・認識は？

県内の各高校は、ヤングケアラーに対する対処や認識はどうなのだろうか。各校の新聞部顧問の先生10人に聞いてみた。（学校は順不同）

質問
①先生は、ヤングケアラーという言葉を知っていましたか？
②ヤングケアラーについて、どのような認識をお持ちですか？　先生のこれまでのご経験等もあれば、あわせて教えてください。

〈回答〉

県立・A高校
①知っていたが、（学校として）特別な対応はしていない
②全国調査の数値が一人歩きしている感があり、富山県内ではどうなのか、各市町村などの自治体ごとの実態はどうなのか、その上で対策や方策など改善していくべきことは何なのか、政治がどのようにこの問題に対応すべきなのか考えるきっかけが生まれることを期待します。

県立・B高校
①知っていたが、（学校として）特別な対応はしていない
②家族の面倒を、家族が見るというのは当たり前と言えるものだと思っていましたが、度が過ぎる場合は公的な支援が必要だと思います。

県立・C高校
①知っていたが、（学校として）特別な対応はしていない
②やはり時間的・精神的に大変だろうなとは思います。家事の負担が大きいことを相談された経験はあります。苦しんでいた時期もあったようですが、たくましく学校生活を送り、進路実現もしてくれました。

県立・D高校
①知っていたが、（学校として）特別な対応はしていない（結構面接は全クラス全生徒複数回されているので、ヤングケアラーということに関わらず、生徒の家庭も含めたそうした実情は把握して指導されているとは思います）
②子どもが将来大人になった時に、（教育が十分に受けられないなど）その影響によって持たざるを得ないハンデが懸念される。

県立・E高校
①知っていたが、（学校として）特別な対応はしていない
②社会人になる前（大学生まで）にヤングケアラーになる場合、心理的に大変だと思います。

県立・F高校
①知っていたが、（学校として）特別な対応はしていない
②家庭状況の格差を感じます。学校としてそこまで把握するのは難しいと感じます。

県立・G高校
①知っていたが、（学校として）特別な対応はしていない
個別の状況対応は行っているが、組織としては支援システムは構築せず。
②教職員の働き方改革も含め、生徒の放課後の活動や家庭での過ごし方について、より自由度の高い、各人の状況に寄り添ったあり方が求められるのではないか。同時に、「全日制」という課程も再編すべき時に来ている。

県立・H高校
①知っていたが、（学校として）特別な対応はしていない
②これまで、ヤングケアラーに近い生徒とは関わったことがあります。母子家庭で、母親の心身の状態が思わしくなく、子どもに負担がかかっている家庭など。しかし、母親も仕事はしていらっしゃって、生活保護を受けるつもりはない、という場合、どこまで学校が介入できるか、というと実際のところは支援は難しいです。また、行政に相談した場合、どういう支援が可能なのか、教育現場には現在のところ情報が来ていないと思います。

テレビのニュース番組などで専門家の意見として、「家族の問題は家族で」という日本の伝統的な慣習もこの問題の一因と言われていました。本来は学業等に専念するべき学生が、ひとりで介護を担うのは問題であると思います。

県立・I高校
①聞いたことがあるが具体的には知らなかった
②少し前に新聞で全国実態調査の話が掲載されていたのを見ました。思っていたより割合が高く驚いたのですが、これまであまり注目されてこなかった問題だと感じました。（「家族は支え合うもの」という風潮があるし、そうした家族像も理想化されてきたから？）

私立・J高校
①知っており、（学校として）意識して対応している
②「家庭の都合」という理由で休む生徒がいるが、詳細にその内容を尋ねることなく、許可する姿勢も必要ではないか考えるようになりました。

記者の目

全体的に、ヤングケアラーという言葉を知っているという高校が大多数だったが、学校としては特別な対応はしていないという回答が多かった。ある高校は「実際に学校が介入して支援をするということは難しい」と答えている。やはり、家庭の事情に踏み込むことは意見の食い違いやプライバシーの侵害の可能性を生み出すことになり得るため、学校側としては対応がしにくいと考えられる。

また、ヤングケアラーの認識については、各高校で大きな違いが見られた。「大変そう」といったヤングケアラーの生徒を心配する声や、「市や県などが何かしらの公的な支援をする必要があるのではないか」といった今後の行政の対応に期待する声が多く見られた。【村野魁俐】

国際高の先生方の認識　ヤングケアラー　今後増える可能性あり　制度面での支え必要

国際高の先生は、ヤングケアラーについてどのような認識を持っているのか。新聞部ではアンケート調査を行った。（順不同）

・ヤングケアラーばかりでなく、苦労している生徒はたくさんいます。先の人生でも幸せになってほしいと思う。（倉田校長先生）
・修学や勤労の機会を失いかねないが、各家庭の努力で打開できる問題ではなく、制度面で支えていけばならないと思う。（三浦副校長先生）
・社会のシステムの中にいかにサポート体制を作っていけるか？（端野先生）
・生徒の介護休暇などを含めて公欠が取れるようにサポートをすべき（林要昭先生）
・祖父母の認知症は生徒からの事例として多い。（豊島先生）
・距離感が難しい。（岩崎先生）
・周りに協力してもらうのが苦手、あるいは金銭的に恵まれていない。（和田先生）
・増えてほしくないが今後増える可能性は十分あると考えている。（安部先生）
・周囲の人の理解、協力、支援、行政による実態把握、支援が急務と考える。（小谷内先生）
・イギリスのように法律を制定し、子どもの権利を社会全体で尊重すべきだと思う。（田畑先生）
・非常に難しい問題でもあり、もし自分のクラスにヤングケアラーに該当するような生徒がいた場合、対応に困る。見捨てられないけど具体的に行動できることが思い浮かばない。最近はNHKで取り上げられるなど認知はされているだろうけど、いざ個人的に効果的な何かができるかと言われると難しいと思います。（西村先生）
・格差社会が広がってきたと実感する出来事だと思います。（水野先生）
・学習面などに支援が必要だと思う。（大沢雅人先生）
・日本は家族や家庭が一つの塊として認識されており、家族の一員として仕方のないことになっている。教育や環境の平等という観点から見ると生まれた環境によって若い世代の様々な機会を奪われているのはどうにかならないかなと思う。（匿名）
・超高齢化社会や、高齢出産等で少子化や障害を持った子どもが多くなりその面倒を見ることは必要なのかもしれないが、心が痛む。（橘川先生）
・行政が早く対応するべきである。（川西先生）
・社会としてサポートしていく仕組みを作ることが必要だ。（嵯峨先生）
・コロナ禍の中、経済的、精神的に家族として機能しなくなっているケースが少なくないのではないか？　ヤングケアラーが増えているのは痛ましいことです。もっと意識を持つ必要がある。（三輪先生）

特集まとめ　ヤングケアラー問題　まずは認識の見直しから始めよう

私達がこの特集に取り組んでいる最中の6月18日、政府が閣議決定した経済財政運営の指針「骨太の方針」に、ヤングケアラーへの支援が初めて明記された。このように、公的にも徐々にその存在が認識されつつある「ヤングケアラー」。自分達と同じ世代で、そのような状況下で日々の生活を送っている人がいる。

まず、私達は国際生のヤングケアラー認知度を調査した。結果、全校生徒の約8割がこの言葉を聞いたことがないという、予想通りの事実が浮き彫りになった。

このような現状を改善するため、まず何をすべきだろうか。そう考えた私達は、富山国際大学子ども育成学部の村上満教授に調査結果を報告し、見解を述べてもらった。

「高校生の皆さんはまず、ヤングケアラーに関心を持つことから始めるべきだ。皆でヤングケアラーについて知り、ヤングケアラーの若者が周囲に悩みを相談しやすい雰囲気を作っていこう」と村上教授。では、相談しやすい環境作りには何が必要だろうか。本校相談室の中松先生は「ヤングケアラーである生徒が置かれている現状に向き合い、対応策を一緒に考えることが大切」と話した。この考えに基づいた支援を行うことで、ヤングケアラーの生徒達も自分の心の内に潜む不安を徐々に打ち明けられるようになるはずだ。

本校の先生方によると、国際高には「日本語が第一言語でない家族のために通訳している」という定義に該当するヤングケアラーの生徒が最も多くいたという。そこで私達は、そのような若者の支援を行っている射水市のボランティアの女性に話を聞いた。彼女は主に、外国籍の子どもと一緒に宿題をしたり、学校からのお便りが読めない保護者に内容を伝えたりといった活動をしている。「中学生くらいになると、病院の診察、ビザの申請などを家族から頼まれる子が多いように感じる」そうだ。時々、家族のために通訳をするといった子どもがほとんどであり、自らの日常生活に支障をきたすほどのケースはあまりないようだが、子ども達にとってはそれが大きな負担となっている可能性もある。彼女は「子ども達は毎日、本当に頑張っているが、そもそも病気のことや書類、車の保険などに関する難しいことは知らない。必要なのは、知り合いの大人を通訳に連れて行くなどの対策を講じること」と指摘する。大人と同じような、いや、大人でも大変なことをしなければならない環境にいる子ども達が存在する。この現状を、私達はもっと重く受け止めるべきだ。

私達は取材をしていく中で、「ヤングケアラー」という言葉に、可哀想、大変そうといった負のイメージを感じる人が多いのでは」という声を何度も聞いた。しかし、このままではいけない。村上教授の言葉を借りるならば、「家族のことを優先していて偉いというプラスのイメージ」を持って、ヤングケアラーの子ども達に接していくことが非常に大切だ。そのような認識を持つことで、ヤングケアラーの子ども達が社会から孤立を感じることも減るだろう。社会全体の見方を変えるため、まずは高校生の私達から認識の見直しを始めよう。【吉村裕子】

2015年卒業生　車いすバスケ

祝 岩井選手 東京パラ代表に

世界トップレベルのスピード・得点力

日本車いすバスケットボール連盟は6月17日、東京パラリンピックの男子日本代表内定選手12人を発表し、富山県車椅子バスケットボールクラブ（富山県WBC）に所属する岩井孝義選手（24）＝SMBC日興証券、魚津市＝が選ばれた。岩井選手は本校の卒業生。初めてのパラリンピック出場となる。

ボールを手にトレーニングに臨む岩井選手

岩井選手は小学6年の時に受けた脊髄のがん摘出手術で神経を切断した後遺症で両脚が動かなくなり、リハビリのため車いすバスケに取り組んだ。2017年、カナダのトロントで開催されたU－23（23歳以下）世界選手権で初めて日本代表入りして4位。

2018年からフル代表でプレーし、三菱電機ワールドチャンピオンカップで全勝、日本の優勝に貢献した。最も障がいが重いクラスに属する岩井選手は、同クラスの選手の中でも世界トップレベルのスピードと得点力を誇る。

国際高在学中から頭角

岩井選手が車いすバスケを始めたのは13歳の夏、主治医に勧められ練習を見学しに行ったのがきっかけだった。人見知りで消極的だったこともあり、当初は「毎回どうやって休もうかと考えながら練習日を迎えることを繰り返していた」そうだが、転機を迎えたのは15歳の頃。富山県WBCの先輩で、今回も北京・ロンドン・リオに続き4度目の選出となった宮島徹也選手（32）から、「頑張ったらおまえも（U－23日本代表に）なれるんじゃないか」と言われ、「じゃあU－23代表入りを目標にしてみよう」と本気で競技に取り組むようになったという。

週2回のチーム練習以外に個人練習を週2回入れて練習量を増やし、チームの先輩から付きっきりで、車いすの操作、パスやキャッチ、車いすディフェンスの練習など基礎から全て、多くのことを教わった。

そして国際高に入学した2012年秋、ついに目標を達成。クウェートでの国際親善試合にU－23代表として初めて参加、2位を勝ち取った。「その時のことは緊張し過ぎていて、実はあまりよく覚えていない」と話す。

2015年に国際高を卒業し、アスリート社員としてSMBC日興証券に就職。そこからの3年間は、日本代表合宿の選考会には呼ばれていたが落選し続けた。同世代の選手が次々と選ばれていく中、大きな焦りを感じ、自分のプレーや練習内容を見直した。当時、代表のローポインター（＊注）に点を取れる選手が少なかったため、「外からのシュートを練習したり、ディフェンス力強化のために車いす操作スキルを磨いたり、筋トレでパワーをつけたりと、どうしたら代表入りできるかをさまざまな面から考えて練習を重ねた」という。

その努力の結果、2017年のU－23に代表メンバーとして出場、その後、頭角を現し日本代表強化指定選手に選ばれ、2018年6月のワールドカップで日本代表選手に選出されて見事優勝し、ベストプレーヤー賞を受賞した。

その後も日本代表チームの一員として活躍、東京2020パラリンピックでの日本代表強化選手に選ばれ、メンバー入りを目指しさらに練習に励んでいた。

東京パラリンピックの車いすバスケットボール競技は12カ国が参加し、8月25日に始まる。前回大会9位の日本は、1次リーグでカナダ、韓国、スペイン、トルコ、コロンビアと対戦する。

日の丸を背負う岩井先輩の活躍を応援しよう！

独占インタビュー

目標に向かって努力を

新聞部は、岩井選手に独占インタビューした。

Q．出場内定、おめでとうございます。今の気持ち・意気込みを教えてください。

A．代表入りは一つの目標だったのでホッとしました。それと同時に、ここからさらに努力しなければいけないなと思いました。

Q．昨年、東京大会が延期になったときの心境はどうでしたか。

A．延期のニュースが出た時は中止にならなくて良かったなと思いました。延期になった1年間を、さらに成長できる時間ができるとポジティブに捉えてトレーニングを行いました。

Q．いま力を入れているのはどんなトレーニングですか。

A．体幹トレーニングです。僕は車いすバスケの持ち点の中で一番障害の重い持ち点になります（＊注）。腹筋、背筋の機能が普通の人よりもかなり弱いので、トレーニングすることによってプレーの幅が広がったり、安定したりすることにつながるので重点的に行っています。

Q．東京大会での具体的な目標を教えてください。

A．東京大会では日本代表チームの目標であるメダル獲得に向けて貢献できるように、本番までの時間を大事に過ごしていきたいと思っています。そして今、僕が日本を代表してプレーできるのもたくさんの方々のサポート、応援があってこそだと思っています。東京の舞台、コート上で最高のプレーをお見せして恩返しができるように準備したいと思っています。

国際高校の生徒の皆さんもぜひ応援よろしくお願いします！

Q．後輩の国際高校生にメッセージをいただけますか。

A．国際高校の生徒の皆さん、はじめまして。岩井孝義です。

僕はずっと目標の一つにしていた東京パラリンピックの日本代表に入ることができました。これは僕の努力だけではなく、たくさんの方々にサポート、応援をしていただいたからこそ達成できたことだと思っています。

高校在学中も、職員の方々にたくさんの応援をしていただきました。本当に感謝しかありません。

皆さんも私生活の中、そして目標に向かうにあたって、たくさんの方々がサポート、応援をしてくれていると思います。その方々への感謝は絶対に忘れずに生活を送っていってほしいと思いますし、目標に向かって努力してほしいなと思います。

（＊注）

車いすバスケットボールは障がいの重さに応じて選手一人一人に持ち点がついており、コート上の5人の合計が14点以内でチームを構成する。岩井選手の持ち点は1・0で、一番障がいが重いクラス。岩井選手のようなローポインターは、障がいが軽いハイポインターの選手を活かすプレーや、リングから遠い距離で点を取ったりすることが多い。

○続・海外特派員通信

コロナ乗り越え貴重な経験

田中世哉さん（31H）Fromアイルランド

毎回好評の、海外留学中の国際英語コース生による「海外特派員通信」。今回は、今年1月から6月までアイルランド・ダブリンのRockbrook Park Schoolに留学していた田中世哉さん（31H）に伝えてもらう。

ホストファミリーとマリー公園で散歩。田中さんは左端

こんにちは、私はアイルランドの首都ダブリンという都市で5カ月間留学していた田中世哉です。アイルランドには、主に英語や異文化についてより深く学ぶために留学していました。アイルランドの国土面積や人口密度は日本の北海道とよく似ていて、総人口の約4割がダブリンに集中しています。

アイルランドの人々はとても活発で、多くの人が2日に1回は家族で散歩に出かけたりします。公園やサッカーコート、バスケットボールコートなど、体を動かすための公共施設も整えられていて、非常に住みやすい国だと感じました。緑が豊富な国ですが、シティセンターに行くと商業施設も発展していました。

食文化はポテトが有名で、1日1食はじゃがいも料理が出てきました。アイルランドはイギリスの隣国で、料理が有名な印象はありませんでしたが、実物を食べてみるとすごく美味しかったです。アイルランド特有の料理以外にもイタリア、トルコ、中国、インドなど、様々な国の料理が食べられました。

私のホストファミリーは10歳と12歳の妹、14歳の弟、父と母でした。12歳の妹はダウン症で、どのように接したら心を開いてくれるのか、沢山考えて苦労しました。しかし、私から心を開いて笑顔で話しかけると、彼女はうれしそうに可愛い笑顔で答えてくれたので、すごくうれしかったです。

ホストファザーがプレミアリーグのリヴァプールの熱狂的なファンで、試合がある日はいつも一緒に観ていました。ホストブラザーとはPS4やVRなどで週末を家で楽しく過ごしました。ダブリン以外にも色々と見てみたかったのですが、行動制限のせいで遠くに行けなかったことがすごく残念です。ですが、留学最後の1週間はロックダウンも解除され、アイルランドの日本庭園を観光することもできました。

私が留学した時期は、コロナウイルスの感染拡大防止のためロックダウンが行われていました。その影響は大きく、最初の2カ月は授業もほぼオンラインによるものでした。留学生の私にとって、オンラインでの授業は簡単なものではありませんでしたが、授業の理解に苦しんでいた時にはホストファミリーが親切に教えてくれ、何とか食らい付いていくことができました。

アイルランド国内のコロナウイルスの新規感染者数が落ち着いたことで、留学後半からは対面形式での授業を受けることができました。私の学校は非常に広く、芝のサッカーコートが3面、アストロが3面、バスケットボールコートが1面、テニスコートが2面と充実しており、放課後や昼休みに友達と一緒にプレーしました。また、学校行事の一環として5時間のハイキングもしました。卒業生対先生のサッカーの試合もあり、そういった場面でもアイルランドの人々の活発さを感じました。

日本とは違い、アイルランドのほとんどの学校は学生が学業に集中するため男女別の学校になっています。僕が通っていた学校も男子校でした。生徒の中でも、自分がトランスジェンダーやゲイであることをカミングアウトする人がいて、さらにそれも一つの個性として認め合っているシーンがすごく印象的でした。メディアなどを通して、ヨーロッパではトランスジェンダーに対する理解が日本よりも進んでいることは知っていましたが、想像以上でした。それがなぜかを自分なりに考察すると、日本は髪型など校則が厳しく、学校が生徒の個性を制限する風潮にある一方で、アイルランドの学校では校則が緩く、個性を伸ばそうとする風潮があるからなのかもしれないと考えました。

留学はとても楽しかったですが、もちろん楽しいばかりではありませんでした。特にコロナウイルスの影響は大きく、移動などのあらゆる面で苦労をしましたが、それを自分で乗り越えたことも私にとって貴重な経験になりました。この留学を通して学んだことは、私のこれからの成長のための大きな糧になると確信しています。

自分がやりたいことは何だろうか

学生時代

山田　健司　先生（地歴公民 14H担任）
（写真は大学3年生の時、テレビ局にて 山田先生は後列右端）

高校生活を特に何かに必死に打ち込むことなく過ごしてしまった私は、大学生となり、問いの答えを探し求めるように多種多様なアルバイトに手を出していた。高校卒業直後の春休みから続けた塾講師をはじめ、焼き肉店や居酒屋、交通整理、引っ越し、コンサートスタッフ、スーパーの品出しなど。その多くは長くは続かなかったが、不思議と続けるのが苦でない働き先もあった。それが前述の学習塾、そしてテレビ局であった。

3局でほぼ同時期に雇ってもらってロケに同行、女性アナウンサーが美味しそうに食事する傍で、私は強面で口の悪いカメラマンにビビりながらも、カメラに繋がれたコードが絡まないよう、身を低くしながらコードを「伸ばし、巻き取り」を繰り返した。そんな仕事が楽しかったわけではなく、私の興味はアナウンサーのしゃべりにあった。中継開始直前までの張り詰めた空気の中、ギリギリまで言い回しを確認する姿を、私は尊敬の念を持ちながら見つめていた。

そんな日々を送っていたある日、とある局員の方からアナウンス講座に参加してみないかと誘って頂いた。アナウンス講座といっても、アナウンサーを目指す人だけが受講するようなものではなかった。幼いころから滑舌にコンプレックスがある主婦、婚活応援イベントの司会を急にやることになり、救いを求めてやってきた市役所職員、人前で話すのが怖くて仕方がない高校生、自宅で料理教室をやりたいので進行を学びたいとやってきたマダム。様々異なる境遇を持つ受講者が集まっていたが、全員に共通していたのは「上手く話せるようになること」を目標にしていたということだ。

受講者にはテキストが配布され、月1回の授業であったが宿題も予習も膨大な量であった。にもかかわらず、どの受講者も忙しい日々を送る中でも必ず課題をこなしてきていた。私自身も、時に大学のレポート課題を諦めてまで、この講座の課題を優先していた。

講座には前述の通り多くの社会人の方々が参加していた。仕事終わりの19時から始まる講座で、疲れているはずの彼らは一様に楽しそうに見えた。その姿を見ていた私は今も心にとめている大切なことに気づいた。「自ら望み目標を立てたものは楽しい、頑張れる」ということだ。そしてもう一つ、自分が「話すこと、聴くこと」を仕事にしたいのだということも。

大学卒業後、とある民間企業に就職した。そこでは「話すこと、聴くこと」を仕事にできる環境であったので、私は充実した日々を過ごせた。その後、訳あって市役所職員に転職したが、自らのやりたいことへの願望が捨てきれなかったこともあり、この学校で教員として働いている。

我ながら紆余曲折した人生を歩んできたと思うが、今幸せに過ごせているのは、社会に出る前のあのタイミングで自分のやりたいことに気づく機会を得られたからだと思う。やりたいことが見つからず働く方も多い世の中で、気づけた私は幸運だったのかもしれない。そして、その幸運を結果的に引き寄せた、いろんなことに挑戦してもがいた大学生の自分を少しだけ、ほめてあげたい。

メディア・テクノロジー部

国際ハッキングコンテストで受賞

メディア・テクノロジー部は、カーネギーメロン大学（アメリカ）が主催する中高生向けの国際ハッキングコンテスト「picoCTF 2021」に参加し、日本部門のCognitiveHack Japanで女性部門賞を受賞、表彰式が7月3日に行われた。

受賞したのは、杉本麻衣さん、川越小暖さん、吉田陽果さん、若林亜季さん、下村友里歌さんの3年生5人の女子チーム。

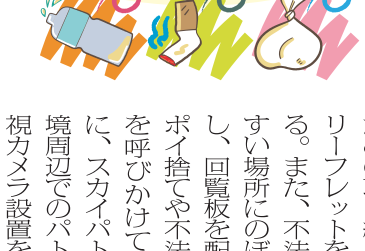
このコンテストは、暗号解読やシステムの脆弱性を使った攻撃などに挑戦し、システムやファイルに隠されているフラグ（答え）を発見するというもの。世界中の中高生が参加し、コンテスト用に用意されたサーバにアクセスしてプログラムなどや暗号鍵を解読しながらフラグを探し、グローバルスコアを競い合った。メンバーはハッキングの攻撃手法を学びながら、防御手段であるセキュリティも同時に学んだ。チーム代表の杉本麻衣さん（34H）は「未知の分野だったので、手探りで調べながら挑戦した。コンピュータの知識だけでなく、発想の柔軟さや数学の能力が必要だった。世界中でたくさんの中高生がチャレンジしていることに驚いた」と感想を述べた。

また、川越小暖さん（34H）は「様々なセキュリティのシステムがどのように動いているのかを学ぶことができた。大学生になってもチャレンジしたい」と今後の抱負を語った。

活動に励むメディテク部員

部説

コロナ禍のポイ捨てモラル



コロナ禍で料理のテイクアウトが増える中、食べ物を入れる容器などの「ポイ捨て」が相次いでおり、テレビや新聞でも困惑する自治体の声が報道されている。また、飲食店の時短営業の影響で路上飲みや路上喫煙が増えており、そこでのポイ捨ても問題となっている。

富山県では大規模な不法投棄は発生していないが、タバコの吸い殻が道ばたや排水溝に捨てられている場面や、河川敷や海岸にプラスチックゴミや生活ゴミなどがたくさん捨てられているところは目にしたことがあるだろう。

環境省ホームページの「産業廃棄物の不法投棄等の状況（令和元年度）について」によると、令和元年度の国内における不法投棄は年間151件、重量にして7・6万トンと未だに後を絶たない。

なぜ、ポイ捨てや不法投棄がなくならないのだろうか。その一番の原因は「捨てることが癖になっている」、「分別が面倒」など、一人一人のモラルの低下、環境に対する意識の低さが挙げられるだろう。

気軽なポイ捨てが、環境に様々な影響を及ぼすことになることを忘れてはならない。捨てられたプラスチック容器などが風で飛ばされ、川を通じて海に流れ着くことになる。それにより海岸や海洋の汚染が広がり、魚が誤飲・誤食し生態系へ悪影響を及ぼすケースも発生する。

また、景観の悪化による観光への影響や、自治体のゴミ回収処理費用の増加など、経済面での影響も見過ごせない。

対策として、ポイ捨てを禁止する条例を定めた自治体も多い。富山市では環境美化に関する施策の基本を定めるとともに、相互の協力の下に環境美化活動を推進し、清潔で健全な生活環境を確保することを目的として、「富山市まちの環境美化条例」を制定した。この条例では、重点的に美観の維持推進や啓発活動を行うため、中心市街地の一部を美化推進重点地区に指定している。反則金などの罰則はないが、吸い殻、空き缶のポイ捨て、違法立て看板の設置などを行った人に対して、指導・勧告・公表することができる。

さらに富山県では、県民にポイ捨て・不法投棄について考えてもらうため、県内のポイ捨てや不法投棄の状況や不法投棄を防止するための取り組みをまとめたリーフレットを作成している。また、不法投棄されやすい場所にのぼり旗を設置し、回覧板を配るなどしてポイ捨てや不法投棄の防止を呼びかけている。さらに、スカイパトロールや県境周辺でのパトロール、監視カメラ設置を支援している。

では、私たち自身にできることはないのだろうか。外出やレジャーの際に出たゴミは持ち帰る、3R（Reduce, Reuse, Recycle）に取り組むなどが考えられる。少しでもポイ捨てを減らし景観を守るために、一人一人がしっかりと意識し、これらの対策を心がけていかなければならない。

編集手帳

肩の荷がおりた　小野かも
サラダバー　御福かも
お疲れ様ありがとう　阿達
受験地獄から抜けたい　鯨
ありがとうございました　餅
お疲れさまでした　はな
人として人と出会う　生茶
お疲れ様でした　宇宙
ありがとうございました　ふ
素麺は麺類の中で最弱　ポロ
ありがとうございました　光
受験頑張ってください　橋